

5. 国際交流状況

①国際シンポジウム等の主催・参加状況

(1)主催状況

区 分		令和 7 年度	
主催件数		1	
主催した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 等 名 称	参 加 人 数 (うち外国人数)
1	R7.10.21 ～10.23	令和 5（2023）年度研究拠点形成事業「アジア型住血 吸虫症の排除に向けた南南・三角協力拠点の構築」 第三回国際会議	37 (31)

(2)参加状況

区 分	令和 7 年度		
参加件数	6		
参加した主な国際シンポジウム等			
	開催時期	国 際 シ ン ポ ジ ウ ム 等 名 称	参 加 人 数
1	R7.4.18	The 12th Wolbachia Conference	1
2	R7.9.10～ 9.12	第 23 回あわじ感染と免疫国際フォーラム	2
3	R7.9.25	第 23 回松山国際学術シンポジウム（PIM2025）	1
4	R7.10.21～ 10.23	令和 5（2023）年度研究拠点形成事業「アジア型住血吸虫症の排除に向けた南南・三角協力拠点の構築」第三回国際会議	2
5	R7.11.6～ 11.7	The 1st Asia-Pacific Association of Veterinary Parasitology Congress 2025 (APAVP_01) 第 1 回アジア-パシフィック獣医寄生虫連合会議	3
6	R8.3.30	The 62nd Annual Scientific Conference of the Malaysian Society of Parasitology and Tropical Medicine (MSPTM_62) 第 62 回マレーシア寄生虫・熱帯医学会年会	1

②国際学術交流協定の状況

協定総数	13						
締結年月	終了予定年月	相手国	機 関 名	協定名	分 野	受入人数	派遣人数
2008 年 11 月	2028 年 3 月	フィリピン	フィリピン大学 マニラ校公衆衛生学部	MOU	原虫病	1	5
2016 年 6 月	2026 年 12 月	ブルキナ ファソ	ワガドゥグー 大学	MOU	原虫病	0	0
2017 年 6 月	2027 年 12 月	南アフリカ	ノースウェスト 大学	MOU	原虫病	0	0
2019 年 6 月	2029 年 6 月	モンゴル	モンゴル獣医学 研究所	MOA	原虫病	1	6
2019 年 7 月	2026 年 10 月	フィリピン	フィリピンカラ バオセンター	MOU	原虫病	1	2
2019 年 7 月	2030 年 10 月	スリランカ	スリランカ動物 生産健康局	MOU	原虫病	0	2
2019 年 10 月	2028 年 2 月	フィリピン	カビテ州立大学	MOU	原虫病	0	1
2021 年 10 月	2026 年 10 月	中国	新疆農業大学 獣医学部	MOA	原虫病	2	2
2022 年 6 月	2027 年 6 月	フィリピン	ダバオデルスル 州立大学	MOU	原虫病	0	0
2022 年 8 月	2025 年 8 月	メキシコ	ケレタロ自治大 学自然科学学部	MOU	原虫病	0	0
2023 年 7 月	2028 年 7 月	キルギス	キルギス共和国 獣医科学研究所	MOU	原虫病	1	0
2024 年 10 月	2029 年 10 月	中国	青海省獣医学 研究所	MOU	原虫病	0	1
2025 年 4 月	2030 年 3 月	タイ	カセサート大学 獣医学部	MOU	原虫病	0	0
合 計						6	19

③国際的な研究プロジェクトへの参加状況

総 数	8		
参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和6年度～令和11年度	モンゴル・モンゴル獣医学研究所	プロジェクト名：国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）・牦疫撲滅に向けた研究および防疫基盤の確立 プロジェクト概要：本研究は、モンゴルの動物検疫システム強化、牦疫（こうえき）の病態精査と宿主特異性の変異可能性解析、家畜人工繁殖技術を専門とする獣医師の養成、人工授精技術などのウマ繁殖管理・牦疫対策への利用、並びに関連政府機関・関係組織などに対するウマの防疫、繁殖管理および牦疫対策基準の提案を実現することで、モンゴルの牦疫流行を制御し、撲滅への道を開くことを目的としている。具体的な取り組みは以下の4項目である。（1）牦疫の現状、ウマの飼育・繁殖・管理システムを調査し、実態と課題を明確にすること、（2）感染実験などから牦疫のウマ特異性が変化するかどうかを明らかにすること、（3）病原トリパノソーマに汚染された牦疫罹患馬由来精子・卵子材料の除染技術を開発すること、（4）家畜人工繁殖技術を専門とする獣医師の養成などの若手人材育成・技術移転を実施し、近代的な動物衛生、繁殖管理および生殖補助獣医療の導入と普及を図ること。 参加国数：2か国（日本・モンゴル） 人数：50名（日本21名、モンゴル29名） 予算見込み額：17,498万円	井上 昇 横山 直明 菅沼 啓輔 Thillaiampalam Sivakumar

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和2年度～令和7年度	モンゴル・モンゴル生命科学大学	プロジェクト名：国際共同研究強化（B）・モンゴルにおける小型反芻獣トキソプラズマ症のワクチン開発研究 プロジェクト概要：モンゴルでは様々な家畜感染症が発生しており、家畜疾病に対する予防・対策のニーズは高く、早急な対応が必要となっている。特に家畜における繁殖障害は経済的な損害が大きく、これに関連する病原性原虫としてトキソプラズマの存在が示唆されている。そこで本研究では、モンゴルの重要な家畜資源である小型反芻獣に着目し、トキソプラズマ感染に対する新しいワクチンの開発を目指す。モンゴル由来原虫株を分離し、細胞スクリーニング法による免疫刺激型抗原の同定、プロテオームによる自然感染動物で認識される感染認識抗原の同定を進め、これら抗原を組み合わせたカクテルワクチンの開発を進める。さらに、遺伝子破壊原虫の解析で新規ワクチン抗原の機能を理解し、小型反芻獣への感染実験を通じて新規ワクチンの効果と防御免疫反応の詳細を明らかにする。 参加国数：2か国（日本・モンゴル） 人数：6名（日本3名、モンゴル3名） 予算見込み額：1,450万円	西川 義文
令和3年度～令和7年度	タイ・チュラロンコン大学	プロジェクト名：国際共同研究強化（B）、家畜住血微生物病の新規制御法創出に向けたマラリア原虫・他住血微生物相互作用の解明 プロジェクト概要：スイギュウやヤギのマラリア原虫の病原性や生活環を明らかにするとともに、他の住血微生物との混合感染状況を明らかにする。住血微生物の混合感染状況と症状の解析を行うと共に、微生物間の干渉に焦点を当てた、家畜住血微生物病の新規制御法創出を行う。 参加国数：3か国（日本・タイ・ネパール） 人数：4名（日本1名、タイ2名、ネパール1名） 予算見込み額：1,470万円	麻田 正仁

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和4年度～令和7年度	モンゴル・モンゴル獣医学研究所	プロジェクト名：国際共同研究強化（B）、馬ピロプラズマ病に対する国際標準血清診断法の開発に向けた学術基盤研究 プロジェクト概要：馬ピロプラズマ病に対する現行の血清診断法には致命的な欠陥があることが指摘され、しばしば大きな社会問題を引き起こしている。そこで、モンゴル国で多発している馬ピロプラズマ病の罹患馬を研究対象に、現行の血清診断法の問題点を科学的に実証し、その成果に基づいて新たな馬ピロプラズマ病に対する国際標準血清診断法を開発していく。 参加国数：2か国（日本・モンゴル） 人数：6名（日本2名、モンゴル11名） 予算見込み額：1,540万円	横山 直明
令和5年度～令和9年度	フィリピン・フィリピン大学	プロジェクト名：国際共同研究加速基金(海外連携研究)、ワンヘルス・アプローチに基づく日本住血吸虫症対策の創出を目指した研究 プロジェクト概要：日本住血吸虫症の排除を達成するには、患者の治療及び患者への感染源となる動物（保虫宿主）への対策を並行して行う必要がある。住血吸虫症の治療には特効薬プラジカンテルが用いられ、一般に、この薬による流行地住民への集団治療（MDA）が、この寄生虫病の流行が認められる国と地域での主要な対策になっている。本研究では(1)独自に開発した診断法を応用した住民と動物での有病率の調査及び(2)寄生虫ライフサイクルの推定を目的としたマイクロサテライトマーカーによる多座位の遺伝子型解析（STR/MLG）技術に立脚して、ヒトと動物の双方を対象にした集団治療（One-Health MDA）を寄生虫病対策の現場で試行し評価することを目的とする。 参加国数：2か国（日本・フィリピン） 人数：7名（日本3名、フィリピン4名） 予算見込み額：1,620万円	河津 信一郎

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和5年度～令和7年度	インドネシア・インドネシア国立研究改革庁、カンボジア・カンボジア保健省国立マラリアセンター、ラオス・ラオス熱帯医学公衆衛生研究所、フィリピン・フィリピン大学マニラ校	プロジェクト名：JSPS 拠点形成事業－B.アジア・アフリカ学術基盤形成型、アジア型住血吸虫症の排除に向けた南南・三角協力拠点の構築 プロジェクト概要：住血吸虫症は世界的に分布する人獣共通感染症で、WHO はこの感染症を NTDs の一つに指定して、そのコントロールを推進している。アジアでは、日本住血吸虫症及びメコン住血吸虫症が、それぞれ、中国・フィリピン・インドネシア及びカンボジア・ラオスの農村や漁村で流行している。住血吸虫症の排除に向けては、患者の治療及び患者への感染源となる動物（保虫宿主対策）への対策を並行して行う必要がある。一方、寄生虫病の高度流行地では患者の特効薬プラジカンテルによる治療が最優先課題になるが、診断法の不備から、この対策を巧く運用できていない。そこで、フィリピン大学との共同研究で開発した診断技術を社会実装するため、フィリピン大学マニラ校公衆衛生学部、フィリピン農業省カラバオセンター、インドネシア国立研究改革庁、カンボジア保健省国立マラリアセンター及びラオス熱帯医学公衆衛生研究所に、アジア型住血吸虫症の排除に向けた高度診断・疫学調査協力拠点を構築する。 参加国数：5 か国（日本・インドネシア・カンボジア・ラオス・フィリピン） 人数：45 名（日本 19 名、インドネシア 7 名、カンボジア 6 名、ラオス 8 名、フィリピン 5 名） 予算見込み額：1,792 万円	河津 信一郎

参加期間	相手国・研究機関名	研究プロジェクト等の概要	関係研究者名
令和6年度～令和7年度	スリランカ・スリランカ獣医学研究所、ペラデニア大学獣医学部	プロジェクト名：JSPS 二国間交流事業、スリランカのロバに感染する馬ピロプラズマの性状解析並びに馬への感染リスク評価 プロジェクト概要： 我々が2022年に明らかにした「スリランカの野生ロバは馬ピロプラズマ原虫を高率に保有している」の知見を受けて、令和6年度では1)それぞれ原虫種（馬タイレリア (<i>Theileria equi</i>) と馬バベシア (<i>Babesia caballi</i>)) のロバ由来野生株を、スリランカで分離・培養を行う。さらに、2) スリランカ国内の飼育馬における馬ピロプラズマの感染状況の把握を行う。令和7年度では3) スリランカで馬ピロプラズマを媒介するマダニ種の同定、4) 発症抵抗性を示す野生ロバから高感受性の馬に馬ピロプラズマが伝播し、経済的被害を招くリスク因子の解明を行う。 参加国数：2か国（日本・スリランカ） 人数：9名（日本4名、スリランカ5名） 予算見込み額：400万円	横山 直明 白藤 梨可 麻田 正仁 Thillaiampalam Sivakumar
令和5年度～令和7年度	中国・新疆農業大学獣医学部、青海省獣医学研究所	プロジェクト名：AMED・新興・再興感染症研究基盤創生事業（海外拠点活用研究領域）、中国の放牧家畜が保有するマダニ媒介性の人獣共通感染症病原体を調査する疫学研究 プロジェクト概要： 中国国内で放牧されている家畜動物（牛、馬、山羊、羊など）から血液をサンプリングし、血液DNAを採取する。また、放牧エリアの牧草等で待機している未吸血のマダニも採取し、マダニ種を形態学的に分類した後に、そのDNAを抽出する。それらの野外サンプルを遺伝学的に解析することで、“中国産家畜動物とマダニに感染している人獣共通感染性を疑う病原体種（原虫と細菌）”を明らかにし、放牧家畜種別、マダニ種別、及び地域別の各種病原体の感染・保有パネルを作成する。さらに、今後の人社会での流行予測やその対応策に関する提言を、中国側共同研究者とともに取りまとめる。 参加国数：2か国（日本、中国） 人数：11名（日本7名、中国4名） 予算見込み額：1,500万円	横山 直明

④研究者の海外派遣状況・外国人研究者の招へい状況（延べ人数）

		令和 7 年度	
		派遣状況	招へい状況
事業区分	合 計	44	27
	文部科学省事業	9	0
	日本学術振興会事業	29	0
	当該法人による事業	6	7
	その他の事業	0	20
派遣先国	① アジア	40	22
	② 北米	2	3
	③ 中南米	0	2
	④ ヨーロッパ	1	0
	⑤ オセアニア	0	0
	⑥ 中東	0	0
	⑦ アフリカ	1	0

⑤その他・国際研究協力活動の状況

事業名等	概要	受入 人数	派遣 人数
該当なし		0	0
合 計		0	0